

RTA ベビー系プロダクツ特集

RTA products



あなたは RTA が開発したプロダクツをどこまでお客さんにきちんと説明できますか？

なぜ RTA はオリジナルのトリートメント剤をつくっているのだろうか？

ロイヤルセラピスト協会認定講座の教材には、オリジナルのトリートメント剤が使用されています。ドラッグストアや雑貨店などで流通している市販のトリートメント剤を使用しない訳は何なのでしょう。ロイヤルセラピスト協会で使用しているトリートメント剤は、すべて厚生労働省の正規の許可を得た化粧品として製造されています。最近加入された会員にとっては、「ベビーマッサージオイルが化粧品：」「厚生労働省の許可可：」ということにピンとこないかもしれません。しかし、RTA が化粧品として製造されたトリートメント材を使用するに至には、様々な経緯がありました。本号ではその経緯を深く掘り下げていきたいと思っています。

「RTA の教材で使用しているオイルやトリートメント剤って高いよね…」

「世の中にはもっと安くて手に入る、赤ちゃんに優しい(?) 商品があるよね…」

少なくともその様なことを思ったり、教室参加のママから同じような質問を受けたこともあるのではないのでしょうか？

2006 年ロイヤルベビーマッサージ講座がスタートした頃は、現在皆さんが使用しているロイヤルベビーマッサージオイルは存在しませんでした。ベビーオイルに関する正しい知識を持って教室開催する方も希少で、無知からくるベビーマッサージ教室が赤ちゃんの肌トラブルの温床にもなっていました。ロイヤルベビーマッサージオイルが存在しないということ、ベビーマッサージ教室では何を使用しても良いという解釈が、ある意味まかり通っていました。当時、協会員から相談があれば、RTA ではジョンソン®ベビーオイルを推奨していたこともあり、ジョンソン・エンド・ジョンソン社といえば、100 年以上前に創業され、米経済誌『フォーブス』において世界企業ランキン製薬

ヘルスケア部門で、世界第二位にランキングされている世界的な超名門企業です。常識的に考えれば、そのような世界的な企業が肌トラブルの温床となるような商品を開発するはずはないのですが、ベビーマッサージを行うママたちにとってたった一つのキーワードが脳裏にひっかかるのです。それは：「ミネラルオイル」であるということ。ミネラル〓石油系〓刺激が強い〓赤ちゃんの肌には良くない：このような図式が一部のママたち頭に成立してしまうのです。

オイル都市伝説の成立その1

ミネラルオイル

石油系？

刺激が強い？

赤ちゃんの肌に良くない？

そして、ネット世代で育ったママたちが無条件で「良品」と信じてしまう魔法のキーワード、それは：

「天然 100%」「自然由来」

「無添加」「オーガニック」

「低温圧搾」

「未精製ミネラルオイル」

「食用だから安心」…





現在でもインターネット通販には、右記のような単語のオンパレードです。堂々とテレビCMを流している企業も存在します。これらの単語は一見、体に優しいと思えるようなキーワードですが果たしてそうなのでしょうか。（本題についての詳細については〇〇のパートで考察していくことにしましょう。）

オイル都市伝説の成立その2

～ママたちをとりこにするキーワード～

天然 100% 自然由来
未精製ミネラルオイル 植物系天然ミネラル
オーガニック 低温圧搾
食用だから安心

拡散する都市伝説

当時、ベビマ教室開催者、参加者ともオイルに関しては、食品、雑貨品、化粧品の違いがつかない状態でした。

ママたちは食品、雑貨品を好んで使う傾向が非常に強かったのです。赤ちゃんに化粧品を塗るのも、刺激が強すぎて危険だとの認識が大方を占めていました。当時のベビマ教室はいわばギャングブルのようなもので、不適切なオイルの使用で赤ちゃんが皮膚トラブルを起こすことも度々ありました。これは、助産師団体のベビーマッサージも同様で、苦しい紛れにパッチテストなどを行っていたようです。

当時、助産師さんたちが開催するベビーマッサージ教室のみならずRTA会員が開催するベビーマッサージ教室でも、「赤ちゃんの皮膚吸収を阻害しない為に、どのベビーマッサージが最適なのか」ということが度々話題となっていました。赤ちゃんが皮膚呼吸をすると、ベビマ教室の先生も、参加者も本気で考えていたのでした。本来タッチケア、親子のコミュニケーションとして行うベビーマッサージの目的が、赤ちゃんを健康にするためという側面が今より強かったのでしょう。タッチケアという側面が薄いので、使用するベビーマッサージの安全性という側面もあまり深く考慮されていませんでした。そこでママたちの取った行為は、ネットサーフィンで、闇雲に適切なオイルの選定作業です。皮膚科学という観点で欠落した状態で、ママたちの心に響いたのが、コマーシャル効果だけは高くインパクトはある「天然 100%」「無添加」「オーガニック」「自然由来」「低温圧搾」などのキーワードだったのです。深く検証もせず、感覚だけで選定した結果…

オイル都市伝説の成立その3

「植物系オイルはミネラルオイルより安全。」
「低温圧搾オイルが赤ちゃんには優しい。」
「未精製のホホバオイルオイルこそが安全。」

六本木ヒルズアーテリジェントスクールで開催されるベビースキンケア講座。オイルに関する正しい知識の啓蒙も行っている。



自分たちで教室で本当に必要とされる安全なオイルをつくってしまおう！そして正しい知識を啓蒙していこう！

そこで、RTAで考えたことは2つ、正しい皮膚科学と製造技術に基づいた安全なベビーマッサージオイルをつくるということ、そして正しい赤ちゃんのスキンケアの啓蒙でした。前者は、ロイヤルベビーマッサージPJオイルの製造、後者はベビースキンケア講座の開発ということで見現化していくのです。

当時、赤ちゃんに使用するオイルに関しては、雑貨品や、一見体にやさしく思える粗悪品は流通しているものの、厚生労働省の許可を得て製造されているオイルはありませんでした。赤ちゃんに限らず、皮膚トラブルの大きな原因は、雑貨品等のトリートメント剤に含まれる「不純物」が皮膚の亀裂から浸透し、ランゲルハンス細胞を刺激しておこるものです。化粧品グレードで製造されたオイルであれば、不純物が十分に除去されていますので、超低刺激な製造物として完成されます。当然赤ちゃんにとっても安全性は非常に高くなります。

化粧品と雑貨品の決定的な違いそれは、安全性だけではなくPL法の適用

化粧品の製造過程で、不純物を取り除くプロセスを精製といいます。当時は、未精製オイルをベビーに吸収させ



貴重画像！完成したばかりのPJオイルを手取る伊藤加代子先生

ることで健康になるという、中世の魔女もびっくりの解釈がまかり通っていた風潮もあり、ネット通販の甘いコピーを鵜呑みにして、オーガニックだの低温圧搾（未精製）だの危ないマッサージオイルを好んで使っていました。また、化粧品の場合はPL法（製造物責任法）が適用されます。雑貨品に関してはいわば、国が正式に認めた商品ではなく、「どこかの誰かが勝手につくって流通しているもの」ですから、製造元すら定かではない場合もあります。当然PL法の適用にもなりませんので、それら雑貨品を使って何かトラブルが生じた場合は、使用した本人が訴えられるという危険性ははらんでいるのです。雑貨品を使用することは使用した者が全責任を負うのです。

プロダクツ開発とベビースキンケアの切っても切れない関係

ロイヤルベビーマッサージの黎明期には、上述のように、今では考えられないようなことも起こっていました。特にベビーマッサージに使用するベビーマイルにはさまざまな迷信や誤解が蔓延しており、皮膚トラブルの温床ともなっていました。「天然」「無添加」「オーガニック」などと称するオイルを無条件に信用しベビマに使用し続けるママたち……。ひどい場合には、食用ゴマ油を使うケースも……。「おい！赤ちゃんが天ぷらじゃないんだぞ！」って今では笑い話にもなりそうなことがまかり通っていた時代でもあったのです。そして皮膚呼吸やベビーマイルが皮膚から吸収すると思い込んでいる困ったママたち……。ほぼ都市伝説と化しているスキンケア、オイルの知識を正しく普及させていかなくては、将来のロイヤルベビーマッサージは危ないぞ！「現場のママたちよいい加減に目覚めよ！」との思いで開発されたのが、2014年に講座改訂を行うベビースキンケアだったのです。ベビーマッサージとベビースキンケアはもはや切っても切れない関係なのです。

インターネットの情報を無条件に信じる危険性

今はインターネットで何でも情報を仕入れることができる時代ですが、

ネット上には情報の信憑性や科学的根拠を検証する場はほとんどありません。特に子育てをするママたちは、ネットやSNSを使って自在に情報を提供し、仕入れることができる世代なので、逆にそこにこそ危険性がはらんでいます。インターネット上には、科学的根拠の乏しい一見正しいと思える情報を、正しいと思い込む連鎖が起こっている可能性があります。ベビーマッサージを取り巻く状況下では、その最たるものが「天然」「無添加」「オーガニック」などの一見赤ちゃんの肌に優しいというイメージ先行のスキンケア剤の流通でもあります。RTA認定講師として活動する皆さんのミッションは、最新の皮膚科学に基づいて都市伝説と化している思い込みをまず正し、科学的根拠に基づいた正しい情報を教室参加者などの一般の方にきちんと啓蒙して行くことでもあるのです。



2008年9月7日初めて六本木ヒルズで初級ベビースキンケアセラピスト養成講座が開催されたときの模様



今やベビースキンケアはメディアでも注目されている。群馬県前橋市RTA指定スクールキュラ（近藤知子先生が群馬県上毛新聞に紹介された）



ロイヤルベビーマッサージ PJ オイル

NET:150mL

成分：ホホバ油、白金、ポリゾルベート 80、水

RTA Baby products

ロイヤルベビーマッサージ PJ オイル

開発秘話

消費者の常識は
化粧品技術者の非常識!?

鉱物油それともホホバオイル

ベビーオイルをつくる上で一番のポイントは、いかに酸化しにくいオイルにするか、ということでした。(酸化したオイルとは、夏場の台所に食用オイルを放置した、あの何とも嫌な匂いを発するオイルです...) 酸化しやすいオイルは刺激物になるので、赤ちゃんに塗るオイルとしては当然不適となります。安全性の高いオイルの選択肢の一つとして、ジョンソン®ベビーオイルに代表されるミネラルオイルがあります。ワセリンやミネラルオイルなどの鉱物油は、石油を原料として合成、精製されています。精製度の高い鉱物油は皮膚刺激もほとんどなく、非常に安全度の高いオイルで、口紅、アイカラー、高級化粧品などの油原料として多く使われています。高度に精製された鉱物油はオイル分子の安定性にすぐれ、乳化しやすく、のびがよく、皮膚の乾燥も防いでくれます。つまり酸化しにくく、ベビーオイルとしてはかなり安全性が高いのです。

鉱物油？ 植物油？ 防腐剤は？ 精製？ 白金？

鉱物油につきまとう誤解

しかし、ここで、ママたちに「心理的な障壁」がおきます。そうです、例の石油Ⅱ危険という先入観です。原油タンカーが座礁して、海に原油が流出したというニュースが時折流れますが、そのイメージが頭から払拭できないからでしょうか。またガソリンスタンドのあの鼻を突くようなガソリンのイメージからくるのでしょうか。鉱物油は体には良くないという誤解が生じるのです。もちろん原油やガソリンをそのまま人体に塗布したら危険極まりないと思いますが、化粧品の製造過程には、原材料の有効成分だけを抽出し、肌に良くない成分を取り除く精製という過程があります。純度の高い鉱物油と精製前の石油は全く異なるものなのです。



原油の瓶詰め。この黒くてどろろ〜としたイメージが鉱物油の印象を悪くしているのだろうか(写真は wiki より)

酸化との戦い？

ロイヤルベビーマッサージPJオイルを製造する際は、鉱物油の安定性は十分分かったもののあえて、ワックス系のオイルであるホホバオイルをベースに進めることになりました。どうしてもママたちの「心理的な障害」も完全に払拭することも出来ないということ、肌に塗ったときの感触からホホバオイルを使用することになりました。やはり、ベビーマッサージはタッチケアなので、肌への感触はオイル選定の上での重要なファクターだったのです。

それでもホホバオイルをあえて選択理由は...

ホホバオイルは他の植物油脂に比べて酸化しにくいものの、不純物を取り除かなければやはり酸化しやすくなります。そこで、精製のプロセスで徹底的に不純物を取り除きました。原材料の中から、肌に良くない成分を取り除き、有効成分だけを取り出して純度を高くする過程を精製と言います。実は、化粧品の品質の善し悪しは、使用成分をどれだけ精製しているかで決まります。ロイヤルベビーマッサージPJオイルは、非常に高度に精製されているため分子構造が均一になり、とても安定したⅡ酸化しにくいオイルとして仕上げる事ができたのです。

防腐剤は悪者!?

ここでもう一つの壁がはばかります。それは一部の方が目の敵にする防腐剤でした。防腐剤とは、化粧品に、細菌やカ



自然界

自然界にあるものはそのまま化粧品としては使えません。自然界には有効成分だけではなく、人体に害を与えるもの、毒性のある成分などが混在しています。

精製



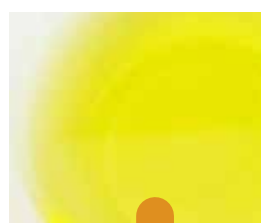
安全で優れた成分を抽出、精製して、安定した成分にする。

有効成分の抽出



有効成分だけを取り出して純度の高いものにする

黄金色のホホバ油原液も精製というプロセスを経て…



無色透明のベビーオイルへと



特に夏場に活躍する梅干し。白米の腐敗（酸化）を防ぐ役割がある。ホホバオイルにプラチナを配合するのは、まさに梅干しの役割と一緒。PJオイル内のプラチナは、この梅干しがご飯の上均一に配置されてるイメージだ。（写真は wiki より）

では、ロイヤルベビーマッサージPJオイルの防腐剤はどうしたのでしょうか？実は、厚生労働省から化粧品として認可を得るには、酸化防止剤の添加が必要になります。そこで、酸化防止剤の代わりとなる新しいテクノロジ、ナノ化したプラチナに注目したのです。ナノ化したプラチナは白金ナノコロイドとは、粒子

救世主白金ナノコロイド

びなどの微生物を繁殖させず、快適に安全に使用するために品質を保証するための薬剤です。パラベンに代表される防腐剤は多くの化粧品に使用されています。一部の方は防腐剤に危険と認識しているようですが、きちんと適量で配合されていると決して危険なものではありません。実は、自然のままの成分の方が変質しやすく不安定で腐敗も早いのです。化粧品は長期使用するものです。私たちは防腐剤のおかげで化粧品を安心して使用することができているのです。世の中には、「無添加」と称している商品もありますが、酸化する可能性のある化粧品の方がはるかに危険なのです。

径0.1〜10ナノメートルの白金の超微粒子によって形成されたコロイドのことです。（う〜ん難しいですね…）ナノとは、基礎となる単位の10億分の1。つまり一ナノメートルとは、1メートルの10億分の1なのです。（う〜ん難しいですね…）PJオイルに含まれているプラチナナノコロイドの大きさは3nm。ミトコンドリアなどより小さく、ヘモグロビンなど同等の大きさです。（ミトコンドリアなんてみたことないよね〜）

プラチナは金属アレルギーを起こさないのか？

白金は、酸化されず、半永久的に反復して活性酸素消去能力をもっています。つまり防腐剤の代わりとして化粧品に使用されており、厚生労働省もその安全性を認めています。そして白金はチタンと同様イオン化しないので、皮膚に付いても金属アレルギー反応を起こしません。難しい話が続きましたがつまり：夏場のお弁当でご飯を腐らせないように梅干しを入れますよね。その梅干しの代わりをするのがプラチナなのです。ホホバオイルに、白金ナノコロイドを配合したのは、早い話、白米を腐敗させないように梅干しを均等に配置したようなものなのです。

自信と誇りを持って使用してほしい！

そして、様々な難局を乗り越えてこの世に誕生したのが、ロイヤルベビーマッサージPJオイルなのです。皆さん、RTAの英知を結集してつくられたこのオイル、自信を持って使ってください！

*** ワンポイント ***

ホホバオイルはオイルじゃない？

ホホバ油は、南米やメキシコ北部で自生するカン木の種子から取れる黄色い液体のロウです。植物性の液体ロウとして分類されていますが、液体なので通称ホホバオイルと「オイル」という言葉が使われます。ホホバ油は他の植物油脂に比べ酸化安定性に優れ、使用感触が良好で、皮膚になじみやすくさっぱりした感触から、多くの基礎化粧品の原材料として使用されています。ちなみに原液は黄金色をしています、PJオイルは精製されているので無色透明です。





📞 ロイヤルベビーマッサージ PJ オイル良くある質問

Q PJ オイルの「PJ」っていったい何？

A プラチナとホホバは英語でそれぞれ、Platinum と Jojoba と表記されます。その頭文字です。

Q 冬にロイヤルベビーマッサージ PJ オイルが白濁している！！不良品なのは？

A 「配送センターから送られてきた梱包をあけるとびっくり！ PJ オイルが白濁している！！！交換してください！」毎年冬になるとこのようなお問い合わせを協会本部にいただきます。ホホバオイルはそもそも液体の口ウのためある一定以下の温度では凝固します。（口ウソクの口ウを想像してください。）白く凝固しても品質には全く問題ありません。おおよその目安ですが気温 5 度前後で凝固し、10 度前後融解します。白く凝固していた場合は、室温を上げる、ぬるま湯で湯煎するなどの措置で元に戻ります。決して不良品なのではありませんので安心してご使用ください。まして、商品交換には応じることが出来ませんのでご了承ください。

Q アロマエッセンシャルオイルのように遮光瓶に入れなくて大丈夫なの？

A ロイヤルベビーマッサージ PJ オイルは、高度に精製され多ホホバオイル、抗酸化作用のあるナノ化プラチナ配合のため、とても酸化しにくい商品です。通常の保存状態であれば遮光瓶に入れる必要はありません。むしろ、遮光瓶に入れないといけないということは、それだけ酸化しやすい商品であると判断した方が良いでしょう。

Q プラチナは肌に金属アレルギーをおこすのではないのでしょうか？

A 白金はチタンと同様イオン化しないので、皮膚に付いても金属アレルギー反応を起こしません。

Q PJ オイルの使用期限はいつまで

A 化粧品は、食品のような消費期限の表示義務は原則ありません。また、通常の保存状態にもよりますので一概に言えません。直射日光下や異常に高温な状況に放置するなどの状況では当然品質保証できる範囲外となります。薬事法では、一部の原材料を含む化粧品を除き、使用の期限を明記するようには定められていません。化粧品は、原則 3 年以上変質・変色しないという制限のもと認可・製造されますが、これは 3 年で劣化するということを意味するものでもないのです。PJ オイルも例外ではありませんが、質問がある場合は、未開封で 3 年以内。開封後は通常の保存状態で 1 年以内としか回答できません。ただし、化粧品は、開封後半年、もしくはワンシーズン以内に使用するというのが一般的な常識です。



プレミアムマザーオイル

NET:84g

成分：オレンジラフィー油

定価：6,600 円（税別）

会員価格：5,280 円（税別）

RTA Baby products

さらに進化したベビーオイル！さらっと伸びがよく妊娠線予防にも効果を発揮！ オレンジラフィー油の単一分のみで完成した希少なプレミアムオイル

構造的にも感覚的にもはホホバ油に良く似たオイルです。人間の皮脂構成成分を含み、さらっと伸びがよくべたつかない特性があります。深海魚ヒウチダイ科の魚類（オレンジラフィー）から得られる無色～微黄色液体の動物性の口ウ。新ベビースキンケア講座では新たに教材の仲間入りとなり、妊娠中、産後の強い見方となるであろう。



RTA ベビーデイクリーム（あかちゃんお出かけクリーム）

NET:30g

成分： 水、ミネラルオイル、メトキシケイヒ酸オクチル、グリセリン、ステアリン酸シア脂、ワセリン、ステアリン酸グリセリル（SE）、t-ブチルメトキシジベンゾイルメタン、ポリシリコーン-14、DPG、白金、セレプロシド、ペヘニルアルコールジメチコン、グリチルレチン酸ステアリル、EDTA-2Na、リゾレシチン、ポリアミノプロピルビグアニド、フェノキシエタノール、ポリゾルベート 80

定価：5,000 円（税別）

会員価格：4,000 円（税別）

RTA Baby products

今や常識！赤ちゃんのUVケア

もはやUVケアはデイリースキンケアの一つとして行うのが常識になりつつあります。赤ちゃんも例外ではなく、外にお出かけの際には必ずUVケアをしたいものです。ところが、UVケア剤は一般的に、皮膚刺激が強いと認識されており、デリケートな赤ちゃんの肌に塗ることは敬遠されていた時期もありました。実は、RTA ベビーデイクリームを最初に製造した2008年当初も、UVプロテクト剤は肌に悪いという風評からパッケージには「UVプロテクト」という表記をあえて表記することを避けていたのです。現在、RTA ベビーデイクリームをリニューアル改良中ですが、パッケージデザインの一環とUVプロテクト表記について厚生労働省と検討に入っております。

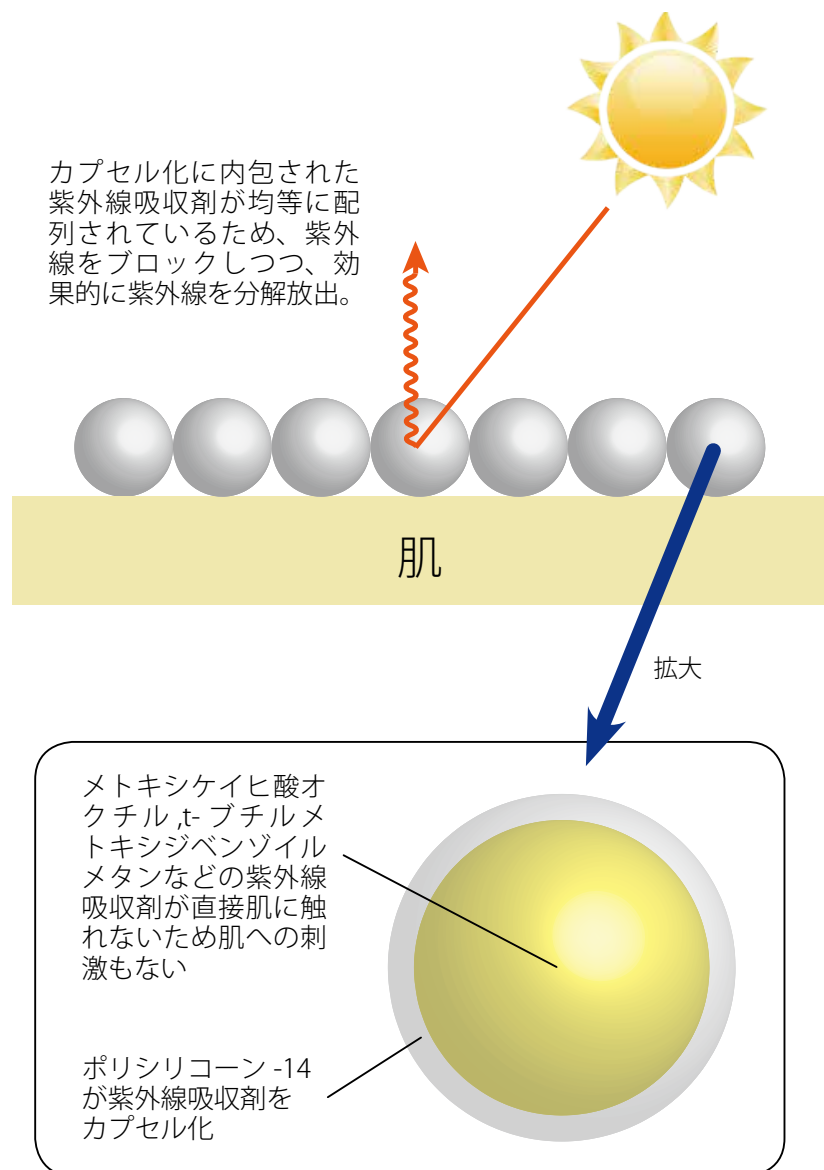
紫外線防御剤の成分とは？

さて、UVケア剤に含まれる紫外線防御剤としては主に2つの種類があります。一つは紫外線吸収剤。もう一つは紫外線散乱剤です。紫外線吸収剤とは、紫外線そのものを吸収し、化学反応が起きること、光や熱などの害のないエネルギーに変化させて肌表面から放出させて、紫外線の肌への悪影響を防ぎます。一方の紫外線散乱剤は、微粒子の粉体が紫外線を散乱させて、紫外線が皮膚内部へ悪影響を及ぼすのを防ぎます。一般的に、紫外線吸収剤は肌への負担が大きいと言われていて、紫外線散乱剤は肌への負担が少ないと言われています。

では、RTA ベビーデイクリームはどちらの技術を採用したのでしょうか？

答えは、紫外線吸収剤です。「えっでも、肌に負担の大きいのですよね？」「特に赤ちゃんに使っても大丈夫なのでしょうか？」そんな声が聞こえてきそうですが、ご安心ください。紫外線吸収剤は近年進化しているのです。RTA ベビーデイクリームで使用している紫外線吸収剤は、直接肌に触れないようにカプセル化技術に成功しました。イメージとしてはカエルの卵のようなものに、紫外線を吸

赤ちゃんお出かけクリームは超低刺激UVプロテクトを実現！



収する成分を封じ込めた感じでしょうか。ちなみに、紫外線散乱剤の主成分は、ファンデーションやおしろいなどで使用される酸化チタンや酸化亜鉛、酸化鉄などで、超微粒子化化されていない場合は肌が白っぽくなる可能性があります。RTA ベビーデイクリームで使用される紫外線吸収剤は、UVA、UVB吸収効果の優れた成分をカプセルに内包されているので、肌にも優しい商品として開発されています。RTA ベビーデイクリームは赤ちゃんが安心してお出かけできる「超低刺激」なUVプロテクト剤なのです。





ロイヤルスキンケアシャンプー（全身用）

NET:150g

成分： 水、ココイルグリシンK、イソペンチルジオール、ココイルメチルタウリン Na、ラウラミドプロピルベタイン、ボタンエキス、アルテア酸エキス、フコボダイジュ花エキス、BG、ポリアミノプロピルビグアニド、香料、

定価：4,600 円（税別）
会員価格：3,680 円（税別）

RTA Baby products

優しい石鹼の香りとマシュマロのような泡が、バスタイムに優しく赤ちゃんを包む。
3つの超低刺激洗浄成分が赤ちゃんを優しく洗浄。6種類の植物混合エキス配合で抗炎症作用。

赤ちゃんのデリケートな肌を守るための基本の「き」それは洗浄。バリア機能が弱い赤ちゃんの肌にも安心して使える全身洗浄料です。3種類の低刺激洗浄成分が赤ちゃんの肌をきれいにするだけでなく、抗炎症作用のある6種類の植物混合エキスがお風呂上がりのかゆみを抑える。そして、抗菌効果のある保湿剤が、赤ちゃんを優しく守ります。しかも、技術の進歩により防腐剤フリーを実現。マシュマロのような泡と、石鹼のほのかな香りで、バスタイムがパラダイスになることでしょう！



ロイヤルベビーエマルジョン（全身用）

NET:50ml

成分： 水、オレンジラフィー油、グリセリン、BG、ホホバ油、トコフェロール、スクワラン、セラミド1、セラミド3、セラミド6 II、フィトスフィンゴシン、コレステロール、シロキクラゲ多糖体、カルボマー、キサンタンガム、ソメイヨシノ葉エキス、フコボダイジュ花エキス、ボタンエキス、アルテア根エキス、アルニカ花エキス、ポリソルベート 60、アミノカプロン酸、（アクリル酸ヒドロキシエチル/アクリロイルジメチルタウリン Na）コポリマー、ラウロイル乳酸 Na、アラントイン、フェノキシエタノール、メチルパラベン

定価：5,600 円（税別）
会員価格：4,480 円（税別）

RTA Baby products

赤ちゃんの皮膚トラブルは、細胞間脂質の不足によるドライスキン。オリジナルで配合された各種セラミドが未熟な赤ちゃんのバリア機能を強化します。

乳幼児から思春期にかけての皮膚トラブルの原因はその年代特有のドライスキン＝超乾燥肌にあります。乾燥の原因は角質細胞同士の接着剤の役割を果たす細胞間脂質の不足にあります。ロイヤルベビーエマルジョンでは各種セラミドを配合し、角質層のバリア機能を果たす細胞間脂質の主成分であるセラミドが角質細胞の表面を膜状に包み、角質の接着や保水の働きをします。その他こだわりの保湿成分だけではなく、6種類の植物混合エキス配合で抗炎症作用も実現しました。そして、セラピストとしてこだわったのは、タッチケアに適した粘性です。お風呂上がりのケアが楽しくなること間違いなし！



ベビースキンケアを 学ぶ前に そのまま放っ ておくと大変 なことになり ますよ…

Baby skinsare

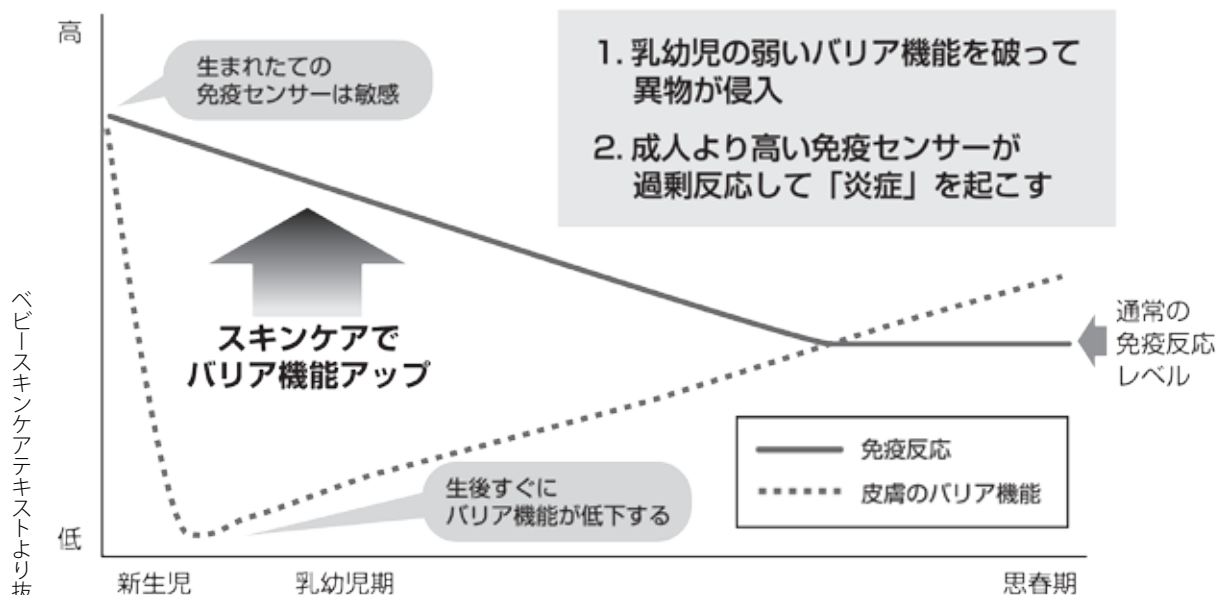
予備知識

世の中には一見正しいと思われる誤った情報であふれている!?

大人が日々スキンケアをするのに、なぜ赤ちゃんにスキンケアをする習慣がないのでしょうか。なぜ、子どもに対してはついつい手を抜いてしまうのでしょうか。小さいときに親からスキンケアをする習慣がないからでしょうか。肌だけではなく、環境破壊に伴う紫外線の増加、なんだか厄介な兆候が顕著になってきたPM2.5…。健康だけではなく、赤ちゃん、子どもの肌を守るのもはや親の義務という時代になったのでしょうか。昭和の時代は、皮膚をゴシゴシ擦る乾布摩擦、日光浴などの健康法などが普通に実施されていましたが、肌は筋肉や肺活量などと違って鍛えても強くない器官です。

ロイヤルセラピスト協会では、世の中に蔓延する様々なスキンケアの情報に惑わされないために、2008年にベビースキンケア講座を開講しました。インターネット上には、科学的な根拠に基づく正しい情報だけではなく、一見正しいと思える誤った情報が玉石混合されています。「一見正しいと思える誤った情報」実はここが一番厄介で、危険がはらんでいると言えます。ベビースキンケアで学ぶことは、成人にも通用する一生涯の知識とです。ベビーマッサージを行うために、もはやベビースキンケアの知識は必須です。ベビースキンケアをまた勉強したことがない方は、是非この機会に受講されてはいかがでしょうか。

なぜ乳幼児期に皮膚トラブルが起こるの？



ぷるぷるもちもちの赤ちゃんの肌！
赤ちゃんのようなプルプルモチモチのお肌に戻りたい・・・
赤ちゃんのように潤いと弾力のあるお肌が理想的・・・

そんなことを考えたことが一度なりともあるのではないのでしょうか？しかし、赤ちゃんのお肌は実はとても乾燥肌です。生後3ヶ月過ぎから皮脂量が少なくなり乾燥肌に変身します。新生児の皮膚の厚さは成人の約1/2程度。特に肌との一番外側の表皮(特に角質層)が未発達なので、外界からの刺激にとっても弱いのです。ベビースキンケアを勉強された方はもうご存知ですね！



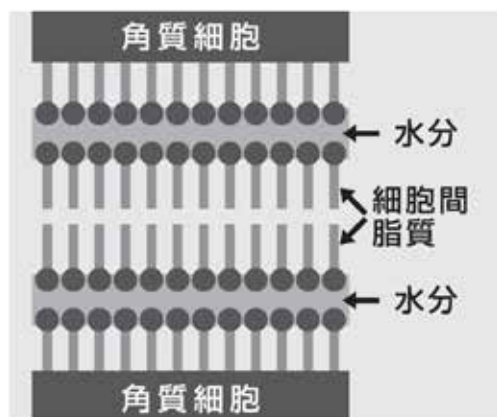
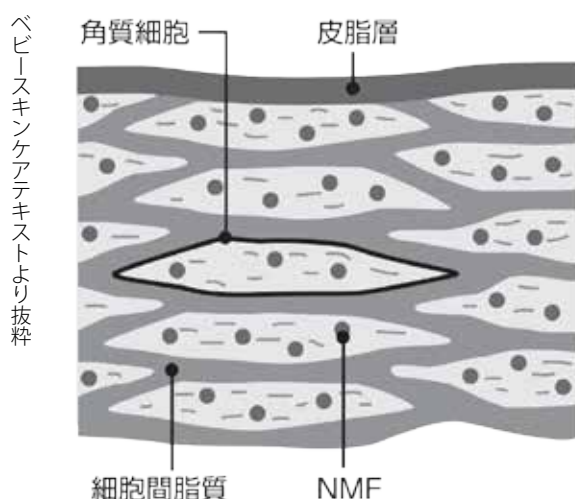
赤ちゃんの肌
☞ 水分量は大人より多め
☞ 汗腺数が多く汗をかきやすい
☞ 皮脂量は80歳の老人と一緒に





未熟なバリア機能…だから攻撃を受けやすいのが赤ちゃんの肌

角質層には、肌の保湿機能と外界からの異物の侵入を防ぐバリア機能がありますが、角質層が未発達な赤ちゃんの肌は、異物の侵入に弱くそして乾燥肌です。乳幼児期に皮膚トラブルが多いのは主にそこに原因があります。赤ちゃんのときにこそスキンケアを行って、バリア機能を強化する必要があります。肌の一番外側の角質層は、角質細胞で構成されてい



て、角質細胞と角質細胞の間には細胞間脂質（セラミド）という特殊な脂質が満たされています。まるで、角質細胞がレンガで細胞間脂質がモルタルのような構造になっています。この構造により外界の異物の侵入を防ぐ役割をしているのですが、赤ちゃんの肌は成人よりバリア機能が弱いため、肌トラブルが起りやすいのです。赤ちゃんの肌には、乳幼児期の弱いバリア機能を破って異物が侵入します。しかも、成人より高い免疫センサーが過剰反応して炎症を起こすのです。

いまだにはびこる皮膚吸収

TVやラジオなどのCMで、次ような宣伝文句を聞いたことがないでしょうか？

「(…化粧品やエッセンシャルオイルなどの)天然由来の主成分〇〇が皮膚から吸収され角質層を透過して毛細血管に入り込みます。毛細血管から吸収された成分が血流に乗って全身に循環し神経系、免疫系に働きかけ様々な効果を得ることができます…」云々。



特にインターネット上には、上記のような「効果効能」が表記されているものを見受けることができますが、これは医学上全く立証されていないことであり、ひどい場合は薬事法の違反とも考えられます。本来皮膚には排出機能があります。一部の医薬品は例外として、自然界の成分は高分子なため皮膚から吸収されるということは考えられません。例えば、長時間の入浴後に体重を計ると、入浴前より体重が減少していたという経験は誰にでもあると思います。これは、汗腺から汗が排出されたと考えられますが、仮に皮膚に吸収機能があるのであれば入浴後には逆に体重が増加していると容易に想像できないでしょうか。または、長時間の海水浴で海水が皮膚から吸収されて、ぶくぶくに膨れてしまつて大変な思いをしたという方はいらっしゃるのでしょうか。成分が皮膚を透過して血管にまで至ることが本当であった場合、強酸性の温泉に入浴しようものならば、血管や内蔵機能がダメージを受けて死に至ることでしょう。

そして皮膚呼吸も

皮膚呼吸についても同様で、医学的な根拠は全くなくイメージとして語られていることが多いようです。肌は肺のような呼吸器官ではありませんので、メイクやスキンケアの成分により、皮膚呼吸が阻害されるということは迷信にすぎません。皮膚呼吸するのは力エルのなどの両生類だけです。

また、同様の考え方として経皮毒があります。経皮毒とは「皮膚から有害な化学物質が吸収される」とされており、シャンプー、洗剤、化粧品などに含まれる「有害物質」が皮膚を通じて血液中に溶け出し、母子に悪影響を及ぼすとされています。これも、医学的根拠全くないことであり、一企業が作り出した「セールストーリー」に過ぎませんので注意が必要です。



そのとき歴史が動いた!?
人類が両生類になった日…

皮膚呼吸は僕たち両生類の特権さ!いつから人間たちも両生類の仲間入りをしたんだい?

化粧品になぜオーガニック

スキンケア剤の宣伝文句として「自然派」「無添加」「天然」「オーガニック」などの言葉が使用されることがあります。確かにイメージとしては健康上害がなく、体に優しいという印象がありそうですが、その真意はどうなのでしょう。化粧品の原材料として使用される成分には、天然由来であろうとなかろうと、肌に良い効果がある成分と、害のある成分が混在しています。化粧品の製造工程には肌に良くない物質を取り除き、目的とする成分を抽出する精製という過程があり、化粧品の品質はこの精製の差にあります。実は、化粧品の開発側からいけば、天然由来の成分をそのまま化粧品の原材料として使用することは常識であり、あり得ないことなのです。化粧品はジュースではないのです。



日本には、化粧品メーカーだけでも1000社を超える。雑貨品などを製造している業者を含めるとそれは統計をも取れない数となるであろう。規制できる範疇ではないからこそ、消費者がきちんとした知識を身につけることが重要となる。

化粧品はいつから食品になったのだろうか？

また、オーガニックは本来食品に対する考え方であり、農林水産省が定義するガイドラインによって厳格に規制を受けて生産された農作物に対して使用されるものです。食品の名称として、有機〇〇、オーガニック〇〇と表示できるものは「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（JAS法）」の適用を受けたものに限りま

厳格な審査を経ないとオーガニックという表記はできないのだが…

オーガニックの認証を受けた商品は、認証先を記した「有機JASマーク」の表示が必要となり、違反した場合には罰則を受けることになります。つまり、厚生労働省が管轄する化粧品の分野

には、オーガニックという考え方がそもそも存在しません。仮に、化粧品の原材料として有機栽培された農作物を使用した場合でも、化粧品製造の際には前述の通り精製という過程がありますので、徹底的に不純物は取り除かれます。原材料としてオーガニックの農作物を使用した化粧品であっても、化粧品自体がオーガニックであるということは全くのナンセンスなのです。「オーガニックだから安全」ということは化粧品の世界では根拠のないことなのです。オーガニックコスメというものが流通していますが、日本には厳格な定義や規格はないため、外国の認証団体を冠にしている雑貨品が存在しますが、果たしてその認証団体の信憑性はいかなるものでしょうか。ひどい場合は架空の認証団体もあるようです。言葉のもつイメージだけに惑わされずに消費者もきちんとした知識を持つことが重要となります。

【参照】 <http://www.maff.go.jp/j/jas/>
以下、農林水産省ホームページ抜粋



有機JASマークは、太陽と雲と植物をイメージしたマークです。農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないで、自然界の力で生産された食品を表しており、農産物、加工食品、飼料及び畜産物に付けられています。

有機食品のJAS規格に適合した生産が行われていることを登録認定機関が検査し、その結果、認定された事業者のみが有機JASマークを貼ることができます。

この「有機JASマーク」がない農産物と農産物加工食品に、「有機」「オーガニック」などの名称の表示や、これと紛らわしい表示を付すことは法律で禁止されています。

インターネット上だけではなく、テレビやラジオなどのメディアで報道されている情報がすべて正しいとは限らないのです。

先入観や思い込みだけで化粧品の安全性を判断するのではなく、どのような根拠をもとに安全性が語られているのかを考える必要があります。そして、もっと消費者が賢くならなければならないのです。





正しいオイルの選びかた

スキンケア剤と使用されるものに大きく分けて医薬品、医薬部外品、化粧品が存在しそれぞれ薬事法によって定義されています。そしてそのどれにも属さない雑貨品の存在にも注意が必要です。雑貨品も一見正式に許認可を得ているスキンケア剤と同じように販売されていることが多く、特にインターネット上ではイメージの良い宣伝文句とともに販売されているため、一般消費者は「化粧品として」購入していることが多いようです。

化粧品の製造、販売は厚生労働省が定義する「化粧品基準」により使用できる成分、配合量など厳格に規制を受けます。また薬事法によって、全成分の表示からパッケージの表記方法までとても厳しい基準があり、何より人体への安全性が最優先されます。一方、雑貨品は正式に化粧品としての認可が下りたものではありませんので、安全性という面では厚生労働省の「お墨付き」をもらったものではないことになります。厚生労働省が安全と認めたものでもないのです。



日本人は「アロマ」が大好き。その根拠は何であろうか？

アロマテラピーで使用されるキャリアオイルやベビーマッサージオイルとして販売されているものは雑貨品、輸入品であることが多く、実は化粧品の適合外なのです。雑貨品は厳格な規制を受けて製造された物ではありませんので、「効果効能」を比較的自由にパッケージに記載できてしまう危険性もはらんでいます。一見体に優しいそうに思える商品も、その根拠は定かではありません。使用する場合はあくまで個人の判断で行うことになりますので、何かトラブルが起こった場合でもその責任は使用者が負うことになりますのでご注意ください。

こんな表記には雑貨品であることが多いです。

オーガニック〇〇成分入り
高原のハーブ入り
〇〇のわき水をそのまま使用
天然成分配合
天然 100% 〇〇
無添加〇〇
植物系天然ミネラル

それでも雑貨品のベビーオイルを赤ちゃんに使いますか!?

ベビーオイルの選定においても化粧品と雑貨品の区別をしっかりと付ける必要があります。流通されているベビーオイル、特にインターネット上で販売されているベビーオイルとしてつかわれている

ものの多くは、化粧品としての認可を得ているものではなく、前述の雑貨品であることがほとんどのようです。また、鉱物系オイル、石油とイメージしてしまうのでしょうか？一般的に、植物性のオイルが人体に優しく鉱物油（ミネラルオイル）は人体に悪影響があると思われるようですがその真意はどうなのでしょう？ベビーオイルにも前述のように「自然派」「天然」「無添加」「オーガニック」が安全という神話が存在するようです。しかし、鉱物油であろうと植物油であろうとスキンケア剤として使用する原料は精製されますので、ベビーオイルとしての品質の善し悪しは精製の度合いによって左右されます。鉱物性、動物性、植物性とは関係なく不純物をどれだけ取り除けたかどうかオイルの安定性、精度と大きく関わってきます。時折、未精製のオイルこそが赤ちゃんに良いという情報も見受けますが、未精製のオイルは不純物が多く含有されていますので酸化しやすく、かえって赤ちゃんのデリケートな肌には優しくありません。またオーガニックのパートで述べたことと同様に、オーガニックのオイルだから安全という根拠もありません。肌は排泄器官であり、吸収する為の器官ではありませんのでオーガニックであろうとなかろうと皮膚から吸収されて各器官に影響を与えるということもありません。



化粧品と製造物責任法（PL法）

製造物責任法（PL法）は次のように定められています。

「この法律は、製造物の欠陥により人の生命、身体又は財産に係る被害が生じた場合における製造業者等の損害賠償の責任について定めることにより、被害者の保護を図り、もって国民生活の安定向上と国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする。」

製造物に何か欠陥があり、人の生命や身体に害が生じた場合に、被害者は、製造会社などに対して損害賠償を求めることができます。医薬品、化粧品も例外ではありません。医薬品、化粧品を使用したことで人体に何か悪影響が出た場合、製造業者だけではなく販売業者も訴えられ、それに対する判決も多く言い渡されています。正式な許認可を得ている化粧品の場合、製造元が明確なので、万が一トラブルが生じた場合の責任所在も明確です。しかし、手作り化粧品を無断で製造販売した場合、薬事法の違反だけではなく、「製造元」もしくは「販売元」としての責任が伴い、トラブルが深刻になった場合は損害賠償責任を負うことになるのです。化粧品は人体へ安全性が第一に製造されますが、雑貨品の場合は、安全性が確立されていませんので、リスクが非常に大きいのです。無知だけではなく善かれと思っで行っていることの危険性をこの際は非真剣に考えてみましょう。

悪者？界面活性剤？

危険な物質として簡単に悪者にされてしまうものの一つに界面活性剤があります。界面活性剤が危険という根拠はどこからくるのでしょうか。界面活性剤とは水と油の両方の性質を持ち水と油の仲を取り持つ働きをするものです。乳化作用というと分かりやすいでしょうか？マヨネーズを例に考えてみましょう。マヨネーズは酢と油そして卵黄（レシチン）で作られます。本来酢と油は混ざり合わないものですが、卵黄が界面活性剤の役割をして、混ざり合わないもの同士を乳化させて仲を取り持つのです。このように界面活性剤は、チョコレート、アイスクリーム、マーガリン、豆腐、パンの製造にも使われています。実は人類は界面活性剤なしでは生きて行くことができないと言っても過言ではありません。



皆さんが日々好んで食しているものも実は界面活性剤のかたまり

界面活性剤には自然界に存在するものあれば、人間の手で作られた合成界面活性剤もあります。合成されたものが危険であるという根拠は特になく、逆に自然界に存在するものよりも安定させる働きが強いいため、医薬品、医薬部外品、化粧品などの安全性が求められるものには多く使用されています。

界面活性剤を語る上で外すことができないのが石けんです。「自然派」「天然由来」と同じように、石けんこそ人体や環境に優しいというイメージが付きまとうことが多いようです。合成界面活性剤が人体に悪影響で石けんが人体に優しいという構図がいまだに存在するようですが、そもそも石けんこそが合成界面活性剤そのもののなのです。一部の偏った団体が石けんを神聖化したことが、石けん神話を作っているようですが、石けんを神聖化して石けん以外の洗剤を合成洗剤と定義して危機感をおおる商法（石けんビジネス）が存在するのも事実です。実は石けんは水道水の金属イオンと結合して「石けん化カス」を発生させ水質汚濁の原因にもなります。また、石けんはアルカリ性のため弱酸性～中性の肌には刺激になり、特にバリア機能が弱い乳幼児の肌には負担になることが考えられます。手づくり石けんも実は問題で、自分の趣味でのみ使用するならまだしも、ネット上での販売などは薬事法違反になります。業界団体の日本石鹸洗剤工業界も事態を重くみており、ホームページ上で手づくり石けんへの注意を喚起しています。根拠のない善意が人体地球にとってもとても悪であることの象徴的な事例と言えます。



石鹸が赤ちゃんの肌と地球環境を救うという似非（えせ）科学に惑わされるのはもうやめよう！

手づくり石鹸”では法律違反にも注意～化粧石鹸などの取り扱いには薬事法の規制も受ける～

【日本石鹸洗剤工業界 (JSDA) のホームページより一部抜粋】
http://jsda.org/w/06_clage/4clean_203-4.html

手づくり石鹸に許可が必要な場合

化粧石けんは、薬事法の対象である「化粧品」に分類されます。その製造と販売にあたっては、厚生労働大臣の許可が必要です。さらに薬用石けんの場合は「医薬部外品」として、製品ごとの製造承認が必要なうえ、その成分についても基準に準拠していなければならないのです。化粧石けんの許可を取っていない場合は、浴用にも洗顔用にも使うことはできません。

趣味の範囲ならまだしも

手づくり石鹸の問題点のひとつは、薬事法に抵触するおそれがあることです。個人が自分が使う分をつくって趣味的に楽しむちはまだいい、としましょう。しかし、どうしてもたくさんつくってしまうし、人にもその“成果”を触れ回りたくないので、これを人に配ったり、なかにはフリマやネットで販売する人まででてきます。許可なく販売したり不特定の人に配ったりすれば、その時点で法律違反（薬事法）になります。

いちばん大きな問題は

もっと根本の問題は、手づくり石鹸をつくっている人たちが、自分たちのしていることが、いいことだと思い込んでいることです。善意でやっているだけに、思いこみも強く、その結果がいつそう困ったことになる一面もあるのです。

そういった行為が、勧められることではないという認識が、一般に希薄なのも事実です。

このことは、これを陰に陽に推奨し支援してきた各自治体などの公共機関の責任も大きいといえます。

自治体やその関係団体のイベントや印刷物などで、廃油石鹸づくりを「環境にいい」として、PR するのはもうやめなければなりません。市民が参加して環境に貢献する方法には、もっと有効な方法が、いくらでもあるのですから。





皮膚科学 Q&A アトピー性皮膚炎

【以下、日本皮膚科学会ホームページより】
<http://www.dermatol.or.jp/qa/qa1>

マスコミや一部の医師による無責任なステロイド批判により、ステロイド外用薬は怖い薬という誤解が生まれてしまったのはとても残念なことです。ステロイド内服薬による全身的な副作用と混同していたずらに恐がったり、急に中止したための単なる症状悪化をすべて副作用であると混同したりして、ステロイド外用薬は使いたくないとおっしゃる患者さんも少なくありません。恐がってきちんと塗らないと十分に炎症を抑えることができず、かえって使用期間、使用量が増えてしまいます。疑問点や不安が多いときには皮膚科を専門とする医師とよく話し合っ、納得されてからお使い下さい。

アトピー性皮膚炎では皮膚のバリア機能がもともと低下していますので、折角ステロイド外用薬などで炎症を治めても、スキンケアを怠ると炎症は容易にぶり返してしまいます。皮膚の清潔保持のため入浴、シャワーを励行し、刺激の少ない石鹸で軽く洗います。それに加えていわゆる保湿剤の中から使用感のよいものを選んで1日2回塗ります。炎症を抑えると共に、スキンケアをきちんと行うことがアトピー性皮膚炎治療の大原則です。

アトピーの治療薬として用いられるステロイド＝悪者という印象がなぜ根深いのでしょうか。ステロイドに対する副作用への恐れがその根幹にあるようですが、皮膚科医の診断と処方のもとと使用すれば決して危険な薬ではないとされています。アトピー治療薬のステロイドには、日本皮膚科学会も表明しているように様々な誤解があります。

現在、アトピー性皮膚炎では「標準治療」が確立されていますが、ステロイド外用剤で炎症を鎮めたら適切なスキンケアを行うことが推奨されています。アトピー性皮膚炎の原因の一つとしてドライスキンによる、肌のバリア機能の低下が考えられますので、皮膚を清潔に保つこと、保湿、乾燥防止が非常に重要になります。

ステロイドに関するあれこれ

ベビースキンケアテキストより抜粋



子どもが20時間も30時間も紫外線にさらされるといことは通常間考えにくいのでSPF値は20～30程度で十分なのです。一般的にSPF値が多いほど肌への刺激が強くなりますので、その点からSPF値が単に高ければ良いというものでありません。

SPF30 とある場合…
 $20 \text{ 分} \times 30 = 600 \text{ 分} = 10 \text{ 時間}$

☞ 約10時間サンプロテクト効果が持続する。

いまや、デイリースキンケアにおいて紫外線対策は常識となりつつあります。かつては赤ちゃんに日光浴をさせて体内でのビタミンDの合成を助け、歯や骨の形成を助けると言われましたが、現在は食生活も豊かになりビタミンDが不足するという心配もあまりなくなりました。ところで、UVケアの際に必ず目にするSPF値。確かに数値が高い方が効果が高いような気がしますが、赤ちゃんや子どもにとって、SPF値は20～30程度で十分です。SPF値とは、何もケアせずに紫外線を浴びた場合に肌が赤くほてる時間を20分とし、それをどれだけ防ぐことができるかを算出する為の基準値です。

SPF値の大きな勘違い

